

図書館所蔵の元号銭

- 古銭から元号を考える -

今年 2019 年は、「平成」から**新元号**（年号）へと改元される年。日本人にとって馴染みの時間軸が替わることは、現実的・観念的にも大きな影響を及ぼします。

ところで津島市立図書館には、市民の方々からの寄贈で**古銭**を多く所蔵しています。こうした古銭の中には、**元号**の入った「寛永通宝」などの日本銭をはじめ、「永楽通宝」などの中国銭も多く見られます。

今回、図書館で所蔵する古銭の中から特に「**元号銭**」を紹介し、元号について考えてみたいと思います。



昭和 13 年（1938）6 月、神守村百町の畑から出土した大量の古銭（宋銭）。現在は津島市百町の住宅地。

元号とは

元号とは**君主の即位**や**在位中の改元**によって定める年の数え方です。古代中国の**前漢武帝**（紀元前 140-87 年）が始めました。これは君主が**時間をも支配する**ことを意味します。このため、元号には時間をかけて縁起のいい漢字を考え、瑞祥や災害があれば改元（リセット）して世の中を一新しました。

元号には**政治的意図**が強く示されています。天子の統治に服す意味で用いられる「正朔（正月1日）を奉じる」という言葉は、天子の元号を使うという意味です。

なお、日本の南北朝時代、津島では北朝の元号を使っていました。



中国西安市の郊外にある茂陵と陪葬墓。茂陵は、史上初めて元号を定めた前漢武帝の陵墓。

貨幣と元号 ①

古代中国では、貨幣に「半両」「五銖」などの重さを刻むことが、貨幣価値を決める重要なことでした。

しかし、後漢末の群雄董卓は、190年、粗悪な（軽い）五銖銭を大量に鑄造。貨幣の信用は一気に失われました。以後、貨幣の代わりとして絹や布などが使用されていきます。

一方、三国時代の呉・蜀は高額貨幣の鑄造を行い、貨幣改革に取り組みますが失敗。やがて西晋の一時的な統一を経て、中国は「五胡十六国時代」（304～439年）と呼ばれる大分裂時代に突入しました。



呉の孫権が鑄造した「大泉五百」。五銖銭 500 枚相当の高額貨幣とした。



蜀の劉備が鑄造した「直百五銖」。五銖銭 100 枚相当の高額貨幣とした。

五胡十六国時代前期の中国 (327年)



貨幣と元号 ②

貨幣に元号が刻まれたのは、この五胡十六国時代からです。西晋の混乱に乗じ、四川で独立した氏族の**成漢国**（304～347年）は、338年、史上初めて貨幣に元号を入れた「**漢興**」銭を鑄造しました。

この元号銭は、338年に成漢国が「**漢**」という国号に変更し、元号も「**漢興**」としたことから、実用よりも**記念的意味合い**が強かったと考えられています。

これと同じく、匈奴の赫連勃勃が建国した**夏国**（406～431年）も、皇帝即位後の元号「**真興**」を入れた「**太夏真興**」銭を鑄造しました。



陝西省延川県の黄土高原上にある赫連勃勃の墓。勃勃は真興年間（419-426）に、史上2番目の元号銭を鑄造。

五胡十六国時代後期の中国（409年）



夏国の真興年間(四一九-四二六)に鑄造された史上2番目の元号銭

貨幣と元号 ③

中国で五胡十六国が統合された**南北朝時代**（439～589年）、通貨を安定させるため良質な五銖銭を鑄造し、信用付加のため元号を刻むようになります。

南朝では宋の「**孝建四銖**」（454年）、北朝では北魏の「**太和五銖**」（495年）が最初で、以降断続的に鑄造されました。

元号銭が広く流通するのは唐（618～907年）の「**開元通宝**」からです（当初は「開通元宝」で元号と無関係）。日本へも流入し「**唐銭**」と呼ばれました。なお、唐に反乱を起こした燕（安史の乱：756～763年）は開元通宝に対抗し、**独自の元号銭「順天元宝」**を鑄造しています。



北魏の太和五銖



唐前期の開元通宝



燕（唐の反乱勢力）の順天元宝

南北朝時代の中国 (449年)



北魏永安五銖 (529年)



宋孝建四銖 (454年)

貨幣と元号 ④

改元のたびに**新元号を貨幣に刻む**ようになったのは、中国の北宋（960～1127年）からです。このため、北宋・南宋（1127～1279年）を総称した「**宋銭**」は、50種類以上鑄造されました。

一方、日本最初の元号銭は「**和同開珎**」（708年）です。和同とは元号「**和銅**」のこと。武蔵国から銅が産出されたことを記念し、建てた元号です。

和同開珎以後、日本では「**皇朝十二銭**」と呼ばれる12種類の貨幣が鑄造されました。このうち、元号銭は**和同開珎・承和昌宝・貞観永寶・寛平大宝・延喜通宝・乾元大宝**の6種です。



日本最初の元号銭「和同開珎」



皇朝十二銭最後の元号銭「乾元大宝」

貨幣と元号 ⑤

江戸初期、日本では元号銭「慶長通宝」(1606年)が600年ぶり鑄造されました。この後を承けた「寛永通宝」は国内に広く流通します。

また、江戸時代には高額貨幣として小判金・分金銀・朱金銀(分・朱は重さの単位)を鑄造。これにも元号を刻んでいました。

こうした元号銭は、明治になると紙幣「明治通宝」を例外として基本的に廃止。明治4年(1871)からは、史上初めて元号年数を刻む貨幣が発行されました。現在も日本と台湾の貨幣には元号年数が刻まれています。



文政小判。裏には「文」とあり



甲州金(左)、元禄二朱金(右)

元号の魅力 建国元号編

元号は時の君主が考え抜いて決めるものです。とりわけ、建国時に定める元号には強い願望が込められるため、特徴的で魅力的なものがあります。ここでは、中国の歴代王朝から建国元号（数字は西暦）を紹介します。

・やる気元号 「始建国」(新：9) / 「開皇」(隋：581)

「始建国」は前漢に代わって建国した「新」の元号。国号に加え、3字元号も極めて斬新。新しい国を建てるという気概に満ちています。「開皇」は隋の元号。皇帝の治世を開くという気概を感じます。いずれも短命王朝に終わりました。

・武力元号 「建武」(後漢：25) / 「武徳」(唐：618) / 「洪武」(明：1368)

武力で統一を成し遂げる元号です。このうち、「建武」は漢王朝再建に成功した元号です。1300年後の後醍醐天皇も天皇親政を再現すると、この故事にならって改元しました。

・色元号 「黄初」(魏：220) / 「黄武」(呉：222) (いずれも三国時代)

古来より、正統王朝には「徳」(木徳→火徳→土徳→金徳→水徳)があると考えられました。三国魏は、火徳(赤色)の漢を承けた王朝。火徳の次は土徳(黄色)のため、「黄初」を建国元号としました。呉の「黄武」も同様の理由です。

- **国名元号** (いずれも五胡十六国時代)

「燕元」(前燕：349) / 「燕元」(後燕：384) / 「燕興」(西燕：384) / 「燕平」(南燕：398)

短命の異民族政権が入り乱れた五胡十六国時代。その中の鮮卑族慕容氏が建てた「燕国」シリーズは、建国元号にいずれも国号を付けました。斬新です。

- **瑞祥元号** (いずれも五胡十六国時代)

「白雀」(後秦：384) / 「神璽」(北涼：397) / 「龍昇」(夏：407)

建国する時に起きたとされる「瑞祥」をそのまま使用した元号。後秦は吉兆の白い雀が現れた、北涼は天子の象徴である「玉璽」(印鑑)が発見された、夏は龍が天に昇るのを見た、などなど。

- **天授元号** 「神冊」(遼：916) / 「天福」(後晋：936) / 「天命」(清：1616)

天から国運を授かったとする建国元号。「神冊」は神から君主として任命されたことを意味します。「天福」「天命」も国の福運や命運を授かったとの意味です。

- **統字元号** 「大統」(西魏：535) / 「中統」(元：1260)

天下統一こそ、正統王朝に課せられた義務。分裂時代の建国元号には、統一への願望を込めて「統」字を選ぶこともありました。「中統」の元王朝は、1279年に南宋を滅ぼして中華世界を統一。さらに空前の征服事業に乗り出します。

元号の魅力 滅亡元号編

国が滅亡に突き進む時には、衰運を一新しようと威勢の良い元号が選ばれます。しかし、滅亡時の元号は「不吉元号」の汚名を受け、忌避の対象となります。元号を考えるに当たり、こうした滅亡元号も紹介します。

- 「炎興」(蜀：263) …魏軍の迫る中、火徳の蜀が興隆することを願った元号
- 「光初」(前趙：318) …栄光への始まりを願った元号
- 「勝光」(夏：428) …北魏に連敗する中、勝利し輝くことを願った元号
- 「天祐」(唐：904) …悲惨な状況の中、天からの祐(たす)けを願った元号
- 「龍徳」(後梁：921) …龍のように昇る徳(国勢)を願った元号
- 「開運」(後晋：944) …国運が開き、隆盛になることを願った元号
- 「天興」(金：1232) …モンゴルに連敗する中、天運(国)の興隆を願った元号
- 「宣統」(清：1909) …大清皇帝が天下に号令することを願った元号

元号の魅力 トンデモ元号編

元号は、時に願望やファンタジーを盛り込みすぎ、笑ってしまうような稚拙なものもあります。元号の字数も6字まで増えました。元号を考えるに当たり、参考としてトンデモ元号を紹介します。

- 「嘉禾」(呉：232) …呉の孫権が定めた元号。「めでたい稲」の意である
- 「太平真君」(北魏：440) …道教(太平道)の神を尊んだ元号。直前に仏教弾圧
- 「法輪」(大乘：618) …大乘皇帝と称した仏僧曇晟が仏教帝国の実現のため建元
- 「大足」(周：701) …大きな足跡が現れたことを寿いだ元号(大満足と同義)
- 「王霸」(齊：878) …王道・霸道の合体元号。唐末「黄巢の乱」で反乱軍が使用
- 「天瑞景星」(南詔：910年頃) …天にめでたい星が現れた、という意味の元号
- 「水徳万歳」(後高句麗：911) …国の徳を水徳と定め、1万年続くことを願った
- 「天授礼法延祚」(西夏：1038) …6字元号。天から末長い国運を授かったというもの

元号の魅力 日本編

「平成」まで、元号は中国の古典籍から引用すると決められていました。しかし、古代日本では元号に瑞祥をそのまま使用するなど、比較的自由的な発想で決めていました。参考として飛鳥・奈良時代の元号すべてを振り返ってみます。

- 「大化」(645) …日本最初の元号。天皇の徳治が広く及ぶことを意味する
- 「白雉」(650) …2番目の元号。白いキジが献上されたことを寿ぐ
- 「朱鳥」(686) …3番目の元号。赤いキジが献上されたことを寿ぐ
- 「大宝」(701) …国内（対馬）から初めて金が産出されたことを寿ぐ。
悲しいかな、後に嘘（外国産）だったことが判明
- 「慶雲」(704) …宮殿西の楼閣の上に、めでたい雲が現れたため改元
- 「和銅」(708) …武蔵国秩父より純度の高い銅が産出されたことを寿ぐ

- 「**靈亀**」(715) …めでたい徴の亀が献上されたことを寿ぐ
- 「**養老**」(717) …元正天皇が美濃で温泉に入り体調回復。「老いを養う」と喜び改元
- 「**神亀**」(724) …神が白い亀を出現させたことを寿ぐ
- 「**天平**」(729) …甲羅に文字のある白亀が献上。文字に因んで天平と改元
- 「**天平感宝**」(749) …陸奥国から初めて金が産出したことを寿ぐ
- 「**天平勝宝**」(749) …孝謙天皇即位による改元
- 「**天平宝字**」(757) …天井板の模様や、蚕の卵列が文字になったことを寿ぐ
- 「**天平神護**」(765) …藤原仲麻呂の乱を「神霊の加護」で平定したため
- 「**神護景雲**」(767) …都や伊勢神宮で麗しい雲が立ち上ったため
- 「**宝亀**」(770) …肥後国葦北郡・益城郡より、それぞれ白い亀が献上されたため
- 「**天応**」(781) …世の平和に天が感応し、伊勢の斎宮で瑞雲を立ち上らせたため
- 「**延暦**」(782) …桓武天皇の治世が長く続くよう願い改元したもの。比叡山延暦寺の寺名は、この元号から付けられた。

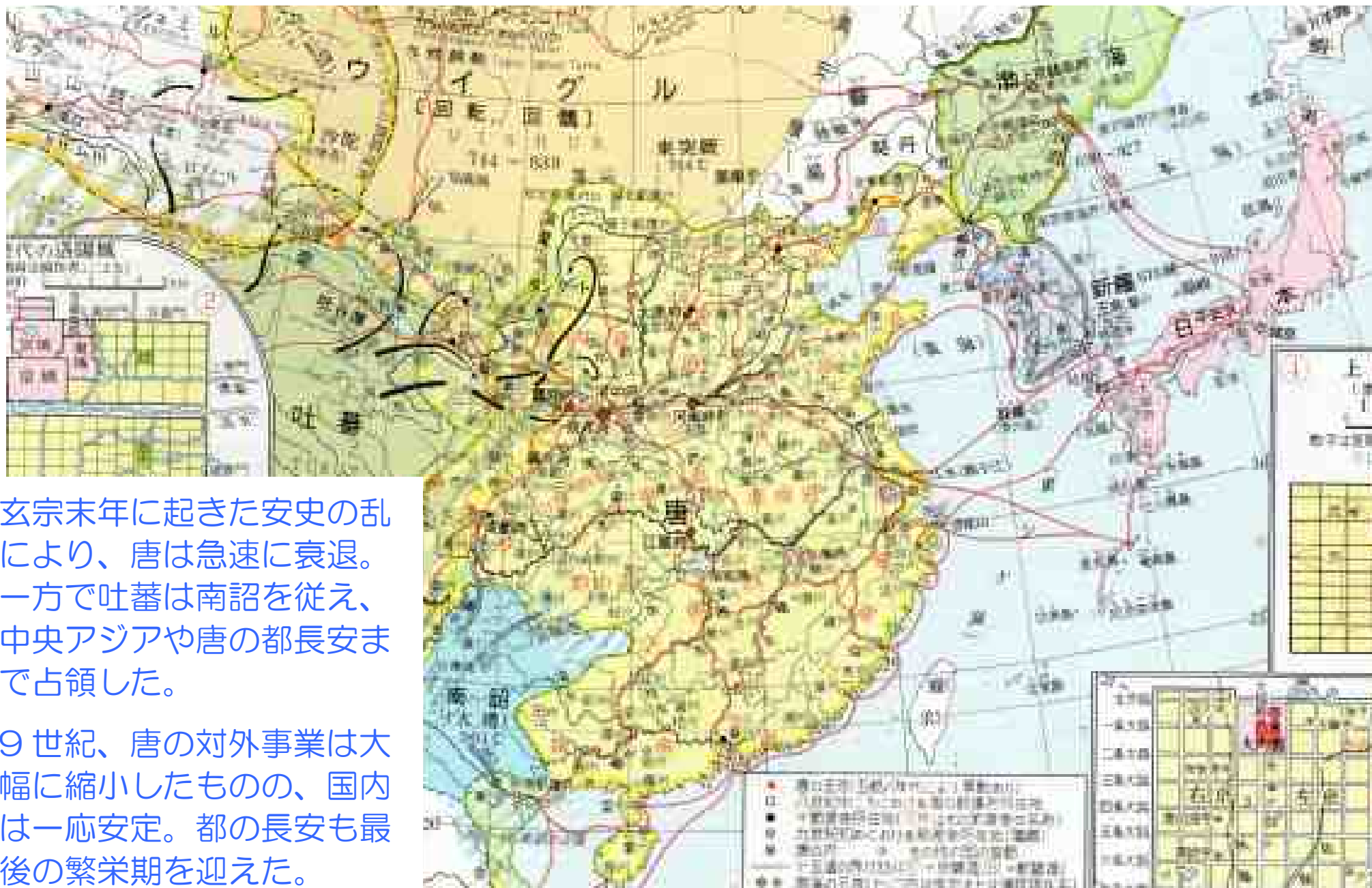
「開元通宝」時代の東アジア（唐代前期：8世紀）



唐の全盛期と称えられた玄宗の開元年間（713-741）の様子。都の長安には各地から人々や物資が集まり繁栄した。

一方、周辺には強大な国家も誕生。とりわけ吐蕃（チベット）は最強で、中国西部の覇権を巡って一進一退を繰り返した（唐蕃戦争）。

「乾元重宝」時代の東アジア（唐代中期：9世紀）



玄宗末年に起きた安史の乱により、唐は急速に衰退。一方で吐蕃は南詔を従え、中央アジアや唐の都長安まで占領した。

9世紀、唐の対外事業は大幅に縮小したものの、国内は一応安定。都の長安も最後の繁栄期を迎えた。

「北宋銭」時代の東アジア（北宋：11世紀）



唐末の分裂（五代十国）を統一した北宋は、中国北部の地を巡り、遼・西夏と対立。終始この2国に苦しめられた。吐蕃はすでに分裂崩壊している。

一方で、北宋は国内の開発を進め、経済力は飛躍的に増大した。

「南宋銭」時代の東アジア（南宋・金：12世紀）



12世紀初め、中国東北部に成立した金は、僅かな騎兵で遼や宋の大軍を破るなど非常に強力だった。間もなく遼・北宋を滅ぼし、西夏を従えた。

一方、南に逃れた宋（南宋）は、国内の開発を一層進め、経済力は北宋時代を上回った。日本との貿易も盛んに行った。

モンゴル帝国時代のアジア (元：13世紀)



モンゴル高原を統一したチンギス・ハンは、瞬く間にユーラシア大陸を席卷。世界帝国を築き上げた。

やがて帝国は分割され、東部はフビライ・ハンにより元となる。高麗に征東行省を設置し、日本へも遠征した。その後、日本は元と交易を行い、元銭も流入した。

「明銭」時代の東アジア（明前期：15世紀）



中国を統一した明は、そのままモンゴル高原へ遠征。同時に、鄭和の大艦隊を派遣し、ジャワ・インド・アフリカ遠征など、空前の大事業を行った。

一方、肥前・壱岐対馬・薩摩を根拠地とした倭寇は、明・朝鮮沿岸を頻繁に略奪。「大倭寇」と呼ばれる深刻な侵略もあった。

一四〇一年、足利義満によって開始された日明貿易は多くの文化や富をもたらし、室町文化の興隆にもつながった。

「明銭」時代の東アジア（明後期：17世紀前期）



16世紀後半より、明はモンゴル・満洲・倭寇への対応に苦慮（北虜南倭）し、加えて豊臣秀吉の朝鮮出兵・ポハイの乱・播州の乱で苦しんだ（万曆三征）。

一方、チベットではモンゴル系のグシ・ハーンがダライ・ラマ5世を擁立。以降、その宗教的権威を確立させた。

「清銭」時代の東アジア（清前期：18世紀）



満洲から中国を征服した清は、明の残党に手を焼くものの、1683年、最後の拠点の台湾を平定。その後、強大な遊牧帝国であったジュンガルと対決し、モンゴル・中央アジア・チベットを征服した。

日本とは長崎の出島を通じて私貿易を行っており、鎖国下の時代でも中国の文物は流入した。

「清銭」時代の東アジア（清後期：19世紀後半）



アヘン戦争以後、清は国内の反乱や列強の進出に苦しんだ。また、周辺の藩属国も次々ロシア・イギリス・フランスの保護下に入った。1894年の日清戦争敗北後、最後の藩属国であった朝鮮も失い、清の国際的地位は失墜した。

文政小判

個人蔵

文政二年（一八一九）より鑄造された一両小判。献上小判として特製されたものです。



表：「壹両」は一両、「光次」は金座の極印



裏：「文」は文政、「大」は小判師の
驗極印、「吉」は吹所の驗極印

江戸時代の金貨・銀貨

個人蔵



一分銀：表（右）、裏（左）
裏に銀座の極印「常是」がある



元禄二朱金：表（右）、裏（左）
裏に金座の極印「光次」と元禄の「元」字がある



一朱銀：表（右）、裏（左）
裏に銀座の極印「常是」がある



甲州金：表（右）、裏（左）
金座の極印「松木」字がある

津島市立図書館所蔵 元号銭の展示品一覧

	中国銭名	元号 西暦	国名・君主の廟号帝号
1	太夏真興	真興 416-425	夏・世祖武烈帝（赫連勃勃）
2	開元通宝	開元（武徳－至徳）621-757 会昌 841-846	唐・高祖－肅宗 ※玄宗開元年間含む 唐・武宗会昌年間の洛陽鑄造銭あり
3	乾元重宝	乾元 758-760	唐・肅宗
4	太平通宝	太平興国 976-983	北宋・太宗
5	至道元宝	至道 995-997	北宋・太宗
6	天聖元宝	天聖 1023-1032	北宋・仁宗
7	明道通宝	明道 1032-1033	北宋・仁宗
8	景祐元宝	景祐 1034-1038	北宋・仁宗
9	至和通宝	至和 1054-1056	北宋・仁宗
10	嘉祐元宝	嘉祐 1056-1063	北宋・仁宗
11	治平元宝	治平 1064-1067	北宋・仁宗
12	熙寧元宝	熙寧 1068-1077	北宋・神宗
13	元豊通宝	元豊 1078-1085	北宋・神宗
14	元祐通宝	元祐 1086-1094	北宋・哲宗
15	紹聖元宝	紹聖 1094-1098	北宋・哲宗
16	大観通宝	大観 1107-1110	北宋・徽宗
17	宣和通宝	宣和 1119-1125	北宋・徽宗
18	淳熙元宝	淳熙 1174-1189	南宋・孝宗
19	慶元通宝	慶元 1195-1201	南宋・寧宗
20	嘉泰通宝	嘉泰 1201-1204	南宋・寧宗
21	開禧通宝	開禧 1205-1207	南宋・寧宗
22	嘉定通宝	嘉定 1208-1224	南宋・寧宗
23	淳祐元宝	淳祐 1241-1252	南宋・理宗
24	咸淳通宝	咸淳 1265-1274	南宋・度宗
25	正隆元宝	正隆 1156-1161	金・海陵王（完顔亮）
26	大定通宝	大定 1161-1189	金・世宗（完顔烏祿）
27	洪武通宝	洪武 1368-1398	明・太祖洪武帝（朱元璋） 薩摩加治木の鑄造銭あり ※慶長年間
28	永楽通宝	永楽 1402-1424	明・成祖永楽帝
29	宣徳通宝	宣徳 1425-1435	明・宣宗宣徳帝
30	万暦通宝	万暦 1573-1620	明・神宗万暦帝
31	崇禎通宝	崇禎 1627-1644	明・毅宗崇禎帝
32	順治通宝	順治 1644-1661	清・世祖順治帝
33	康熙通宝	康熙 1654-1722	清・聖祖康熙帝
34	乾隆通宝	乾隆 1735-1796	清・高宗乾隆帝
35	嘉慶通宝	嘉慶 1796-1820	清・仁宗嘉慶帝
36	道光通宝	道光 1821-1850	清・宣宗道光帝
37	光緒元宝	光緒 1871-1908	清・徳宗光緒帝

	和銭名	元号 西暦	天皇 / 征夷大將軍
38	慶長通宝	慶長 11-? 1606-?	後陽成天皇 / 徳川家康
39	寛永通宝	寛永-慶応 1636-1867	明正天皇－明治天皇 / 徳川家光－徳川慶喜 一文銭・四文銭あり
40	天保通宝	天保-明治 1835-1870	仁孝天皇－明治天皇 / 徳川家斉－
41	文久永宝	文久-慶応 1863-1867	孝明天皇－明治天皇 / 徳川家茂－徳川慶喜
個人蔵	文政小判	文政-天保 1819-1837	仁孝天皇 / 徳川家斉
個人蔵	天保二朱金 / 甲州金 / 一分銀 / 一朱銀		江戸後期